



豊 中 市 教 育 セ ン タ ー

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成 23 年(2011 年)12 月 16 日第 52 号

保護者の視点

腕を振り上げた途端鈍い痛みを感じて、いよいよ右肩が上がりなくなってきました。これが四十肩なののでしょうか。休日は子どもの属する小学校のクラブチームで手伝いをしています。平日はほとんど子どもと接触をする時間が持てないために、彼の成長と引き換えに確実にしのび寄るわが身の衰えを感じながらも頑張っているのです。そんな中で先日来ひとつ気になることがあります。

チームプレーでは、お互いに協力しないとチームとしては成り立ちません。ところが保護者の中にはわが子のことしか見えていない、といった行動をとられる場合もあります。私もわが子を大切に思う気持ちは同様ですが、彼がチームの一員として何を考え、まわりの友だちと協調して行動しているかということがとても気になります。

それは、もしかすると教員としての視点なのかもしれません。学校では、様々な生活背景を抱えた子どもたちが集団の中で学び合います。子どもたちが学級やクラブ活動でどんな様子で参加しているか、周囲の子どもと協力し合っているか、弱い立場になっている友だちに気を配っているか、集団全体が集団として成立することを意識してその一員となっているかなど、教員には、個々の子どもへの丁寧な対応とともに、集団の中での子どもの成長を見取ることが求められます。私は集団の中でわが子を見ていて、ふたつのことに気づきました。まず、彼の家庭の中での姿と集団の中での姿が異なること、そして仕事柄なのか、私は特に集団の中での彼の「個」としての成長する姿がどうなのかに価値を見出して刮目しているということです。

子どもを大切に思い、成長を願う気持ちは保護者も教員も同じです。ただ、所属している「学校」という集団の場において子どもを見ている教員の視点と、保護者のそれとでは質が異なる一面があるのではないのでしょうか。そして、その差は昨今広がりつつあるのかもしれません。

保護者の視点と教員の視点が必ずしも一致していないにも関わらず、一致しているはずだという思いがすれ違いを生んだり、あるいは同じ視点でいてほしいという願いの強さが齟齬を生んだりする場合もあるのではないのでしょうか。心を通わせるために、思いを言葉によって丁寧に説明することと共感的な理解をする努力とが一層求められる時代であると感じます。

(情報・科学グループ 成瀬)

＝今年の理科の自由研究に関する取り組みを紹介します＝

★理科自由研究相談会★

今年、教育センターでは大阪大学と連携し7月23日、8月27日の2回にわたって「夏休み理科自由研究相談会」を行いました。大阪大学理学部の大学院生5人に、参加した21人の子どもの相談にのっていただきました。実験の仕方や分からないことなどは、夏休みの間メールでもやり取りしていただきました。子どもからは「自由研究ってこんなに楽しいんだ！って思いました。」という感想が寄せられました。充実した理科の自由研究に取り組みたいようです。

★第57回小中学生理科展★

9月14～18日に第57回豊中市小中学生理科展を実施しました。総数6628点の作品の中から各学校での選考を経て小学生406点、中学生118点の力作を展示しました。その中から校種別に各6点を大阪府学生科学賞に出展しました。今年は、希望者には展示パネルを作成してもらい出展しました。出展した12点の中で小曽根小の西山浩暉さんの作品「呼吸について」が優秀賞(大阪府教育委員会賞)を受賞しました。

作品名	学校名	学年	氏名
液化化現象の実験	豊中市立中豊島小学校	6	近江岸 勝也
音のアート	豊中市立豊島小学校	6	立石 彩華
呼吸について	豊中市立小曽根小学校	6	西山 浩暉
私が考えた未来の発電	豊中市立上野小学校	6	平野 彩音
キノコ図鑑	豊中市立庄内小学校	4	谷岡 将吾
豊中市の二酸化炭素と水質の調査	豊中市立豊島北小学校	6	高田 夕輝
紫外線と日焼け止めの効果について	豊中市立第九中学校	2	辻本 真悠
雲の研究～僕の天気予報～	豊中市立第十一中学校	2	島谷 俊輝
植物の蒸散と体温調節	豊中市立第十一中学校	2	巖 翔太
自分の部屋はアフリカ！？	豊中市立第十四中学校	2	家森 健輔
ハンミョウとシカと森の自然環境	豊中市立第十四中学校	3	杉本 陽香
塩害についてー本当に海水では植物は育たないのか？ー	豊中市立第十六中学校	2	矢部 千尋

★大阪大学総合学術博物館長賞★

今年から大阪大学総合学術博物館との連携により「大阪大学総合学術館長賞」「大阪大学総合学術館待兼山賞」を創設し、大阪府学生科学賞出展12点の中から校種別に各1点を大阪大学の先生方に選考していただきました。12月3日(土)には、大阪府学生科学賞の作品とともに表彰式を行い、館長賞の受賞者による作品のプレゼンテーションを行いました。豊島小の立石彩華さんは、書画カメラを使って作品を拡大してわかりやすく説明をしてくれました。十四中の家森健輔さんはパワーポイントを使って要点をまとめユーモアも取り入れながら説明してくれました。2人ともすばらしい発表でした。記念講演は「柔軟な思考ーアートとサイエンスー」と題して橋爪館長にいただき、盛会で終わることができました。

これからも子どもたちが理科の学習に興味・関心をもって取り組めるよう科学的な体験や講義に接する機会を充実させていきます。

広報とよなか 1月号に科学教育についての特集記事(市長対談)が掲載されます。是非ご覧ください。

＝研究・研修グループから＝

★1月6日(金)に『研究協力員報告会』を実施します！



今年度も14教科・領域、48人の先生方で研究を進めていただいている豊中市研究協力員の活動について、報告会を実施します。

5月の全体会で奈良教育大学の小柳和喜雄教授にご講演いただき、「活用力の育成をめざした研究および授業づくり」を共通のテーマとして設定しました。指導案検討、研究授業実施、新学習指導要領に対応した指導内容等、各研究会で工夫し、さまざまな研究を行いました。1月6日は、その研究成果の一端を発信し、共有する場としたいと思います。

詳しくは12月5日付けで各校にお送りした案内や、この後お送りする予定の二次案内ポスター等をご参照ください。



★『確かな学び推進事業 ～福井市立至民中学校第4回研究会に参加して～』

10月28日に『確かな学び推進事業』として、福井市立至民中学校の第4回研究会『学びと生活の融合—生涯学習へのスタートを切る—』に小学校、中学校の先生方と教育委員会職員で、参加しました。

至民中学校は、「教科センター方式」とい

う、教室とオープンスペースを活用し、自分たちで問題意識を持ち、調べ、発表し、議論をまとめていく授業の取り組みや、「異学年クラスター制」という違う学年のまとまりを単位として、行事や授業に活用する取り組みを進めています。校舎は、教室とオープンスペースを融合させたつくりとなっていて、教科エリアの配置や、廊下・階段から学習へといざなう工夫などが徹底されています。また、教室には、生徒が学習内容を常に振り返ることができる掲示物等の工夫がみられました。

当日は、6つの授業公開があり、どの授業も生徒主体の授業展開であり、いきいきと学ぶ姿がありました。特に重視されていたのが、「問題解決型学習と言語活動」で、自分のことばで表現する、相手にどう伝えたらさらに思いが伝わるか等を班ごとに討議し、進めていく授業が主体となっていました。

参加された先生方からは、「至民中学校独自の取り組みから、学校のあり方、卒業してからの生徒のあり方など幅広く考える視点を得た」、「工夫された授業を見学し、研究協議に参加したことで、授業の学習形態のみならず、学校として課題やカリキュラムの吟味の必要性、共有の方向性を確認することができた」等の感想をうかがいました。有意義な研修となりました。



「確かな学びを豊かな学びへ！」
教育センターをぜひご活用ください！





気になる子どもへの支援のヒントより 忘れ物が多い子 —保護者編—

2学期は日々の学校生活やいろいろな行事を通して、子ども達一人ひとりの様子がよりはっきりと見えてくる時期と言えるかもしれません。前回号に登場したBさんは忘れ物が多いために叱られることが多いようでした。今回は、家庭とどのように協力してBさんを支援していけばよいかについて考えてみたいと思います。

まず家庭でのBさんの様子と保護者の対応を見てみましょう。

Bさん

- ・ 時間割を合わせる習慣が身につかない
- ・ 学校からの配付物を出しそびれる
- ・ 片付けが苦手で、物をよくなくす

保護者

- ・ 毎日何度も何度も声かけしている
- ・ つい叱ることが多くなってしまふ
- ・ Bさんの代わりに物を片付ける

保護者は“できてあたりまえのこと”ができないBさんに対し、「なぜやろうとしないのか理解できない」と感じているようです。そのため、つい叱ることが増えてしまうのですが、あまり状況の改善は見られないようです。

支援の手だてとして以下のようなことが考えられます。

① 学校と家で共通のやり方で進め、生活習慣として位置づける

(例) *ランドセルの中身を一旦全てカゴに出し、宿題など必要な物を取り出す

(学校と家で共通のカゴをつかう)

*チェックシートを使って、持ち物を確認する

(学校と家で共通のチェックシートをつかう)

*教科ごとに必要な教科書・ノート類をひとまとめにして袋に入れる

*荷物はいつも一定の場所に置く

(家に持ち帰る荷物、学校へ持っていく荷物は常に机の左側にかける)

② 本人ができたことをしっかりとほめる

③ 保護者をねぎらう

④ やってみてうまくいったこと、うまくいかなかったことを学校と家とで共有し、工夫の方法をさらに改善する

持ち物の準備を本人が習慣として身につけていくために、学校と家庭が協力して、具体的な支援を継続していくことが大切です。(石田)

参考：『気になる子どもへの支援のヒント—相談事例集—』 p 26, 27, 44, 45

大阪府教育研究所連盟 教育相談部会編 豊中市教育センター2009年3月発行